

シュテファン・ビーダーマン

ドイツ連邦共和国総領事館・副総領事

自意識の強い大阪人

私は日本は3度目です。最初は学生の頃で、2度目は大学を卒業後、ジャーナリストとして東京のテレビ局で1年半仕事をし、日本を紹介する本も書きました。そして今年7月から総領事館に勤務しています。こうした経験から私は、大阪の人は自分が大阪人であるという意識を強く持っていると感じます。首都は東京にあっても、自分たちの言葉やライフスタイルを持ち、大阪人であることに誇りをもって生活している。ユーモアがあっておしゃべりなところは、ドイツ南部の人にも似ています。

魚の種類に無頓着なドイツ人

ドイツには、北部にわずかな海岸線があるだけで、南部に海はありません。だから南部出身の私は、大阪は港町だという印象がとても強い。多くの外国船が入り出る、世界に開かれた国際貿易都市だと思います。また、海が身近でないドイツの地方では、レストランのメニューの魚料理欄には「魚」と書いてあるだけ。何の魚であるかという説明はありませんし、客も訊ねようとしません。日本では、マグロだけでも、中トロやピントロなどの区別がありますね。島国ならではの海産物の豊かさを感じます。

水都大阪2009にドイツ人も参加

ドイツと日本の文化施策の違いといえば、ドイツでは市民が劇場に足を運びやすいように、政府が文化施設などに多くの助成金を出していることです。おかげでベルリンのオペラハウスでは、学生の入場料はわずか500円。そうして多くの人が文化的活動に参加するチャンスをつくっているのです。

文化への市民参加といえば、今夏の水都大阪2009では、多くの市民とアーティストが一緒になって楽しみましたね。ドイツ人のアーティストも大阪のアーティストと一緒に、水を使った映像表現を行いました。近年はドイツ文化センターで映画や音楽、アート展覧会など日独の多彩な文化交流をプロデュースしており、私たちも一緒に活動することもあります。

大阪にはハンプルクやシカゴ、サンパウロなど、8つの姉妹都市があります。そうした関係を活かして、これからは若い人たちの世界的な交流をもっと活発にしてほしいと思っています。



シュテファン・ビーダーマン (Stefan Biedermann) 氏

1960年、独バイエルン州フランケン地方ホーフ生まれ。ベルリン自由大学と東京大学にて、ドイツ史、日本学を専攻。1985～86年に日本に留学。1996～2000年在日ドイツ大使館勤務。現在京都に在住。趣味は音楽。